

# ブルクミュラー『25の練習曲 作品100』の楽譜表記の研究（1）

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2022-03-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 牛頭, 真也, Gozu, Shinya メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://senzoku.repo.nii.ac.jp/records/2218">https://senzoku.repo.nii.ac.jp/records/2218</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# ブルクミュラー『25の練習曲 作品100』の 楽譜表記の研究 (1)

Study of score notation of Burgmüller's "25 Etudes Op. 100" (1)

牛頭真也

Gozu Shinya

## 1 はじめに

筆者は、地域の子どもたちを対象にピアノ指導をしており、ロマン派のピアノ音楽の導入として、ブルクミュラー<sup>1</sup> Friedrich Johann Franz Burgmüller (1806-74) 作曲『25の練習曲 作品100』<sup>2</sup> (以下『練習曲』とする) を学習させている。その際、どの出版社の楽譜を主として用いるか悩むことがある。なぜなら、『練習曲』は複数の出版社から校訂・解説者を変えて何種類もの楽譜が出版されており、国内で編纂された『練習曲』の多くは、ブルクミュラーの意図を的確に反映していないことがわかってきたからだ。また、筆者の指導している生徒がブルクミュラーコンクール2021に参加したのだが、参加要項には「リピートは次の楽譜に準ずる。東音企画版『ブルクミュラー25の練習曲 今井顕校訂版(原典スラー付き)』」、「14番『スティリエンヌ』のD.C.(ダ・カーポ)は、原典資料であるフランス初版(プノワ社刊1851年)、およびドイツ初版(ショット社刊1852年)のセーニョ記号に基づいて、作品冒頭(第1小節)に戻ること」<sup>3</sup>と注意事項が示されていた。そのため、筆者は複数の楽譜を比較し、生徒が主として使用する楽譜選びを慎重に行った。

すでに明らかにされていることを、楽譜等の情報をもとに以下にまとめる。1990年に『練習曲』初となる原典版<sup>4</sup>が種田直之校訂によって音楽之友社から出版(以下、『種田版』とする)された。この楽譜の学習者のための助言において、種田は「この練習曲集の多くの版では楽譜が非常に大きく変更されている。特にスラーは原曲から掛け離れたものとなっている」(1990:5)と指摘している。また、山本(2018:66)は「ブルクミュラーのこの曲集は、とくに日本においてさまざまなコンセプトで校訂・編集された版が数多く出版されている。版によってアーティキュレーションが異なるのは、のちの校訂者(ピアノ教育者など)が、その時代に適合したスラーなどの奏法を書き足しているからである」、今井は(2019:5)「従来の楽譜にもフレージングスラーや補填の記号などが表示されていますが、これらは後の編集者・校訂者の手によるもので、ブルクミュラー自身が作品に託した抑揚からは大きくかけ離れたものとなってしまいました」と、同じ事柄について指摘している。このような指示を最初につけたと思われるのは、1903年のペータース社から出版された解釈版<sup>5</sup>の『練習曲』とされている。アドルフ・ルートハルト Adolf Ruthardt (1849-1934)<sup>6</sup>が校訂(以下、『ルートハルト版』とする)し、この解釈版が後の日本版『練習曲』の底本とされていく。

自筆譜はというと、現在もまだ発見されていない<sup>7</sup>。では、原典版である『種田版』はどのように編集されたのかというと、「自筆原稿の行方は現在のところはっきりしない。この版は初版をもとにして編集した」(種田 1990: 4) と示している。その初版楽譜は、1851年フランスのプロワ・エネ社(以下、『フランス版』とする)、1852年ドイツのショット社(以下、『ドイツ版』とする)から出版され、現在インターネット上に公開されている。このように1990年の原典版登場後から国内版『練習曲』の見直し傾向が強まり、2006年に春畑セロリ校訂(音楽之友社)<sup>8</sup>の楽譜(以下、『春畑版』とする)、2019年に今井顕校訂(東音企画)<sup>9</sup>の楽譜(以下、『今井版』とする)が出版された。しかし、飯田有抄と前島美保(以下、飯田らとする)によると「今なお楽譜店には新旧の版<sup>10</sup>が併存している」(2014: 138)と指摘している。

このような楽譜の表記についての先行研究として、伊藤充子(1994、1996、1999、2001、2017)はウィーン原典版と、今まで広く使われてきた全音楽譜出版社との楽譜の比較を行い、標題、指使い、スラーのかけ方、反復記号などに顕著な違いが見られたことを挙げている。平澤節子(2011)は、各版においてフレーズに差異が認められ、特に全音楽譜出版社による普及版とウィーン原典版とでは大きく異なる事を指摘している。實野みどり(2013)は、全音楽譜出版社版の最新校訂版、ウィーン原典版、ペータース版(Edition Peters)版、Richard Birnbach Musikverlag版、Alfred Masterwork editionの5社の楽譜を用いて「アラベスク」「進歩」「狩」の3曲の比較を行なっている。「ウィーン原典版では>や^などの奏法の指示が他の版より少なく、|<sup>11</sup>の形をした特徴的なスタッカートや *espressivo* *accento* の表示でニュアンスを伝えていた。解釈版である全音楽譜出版社と Adolf Ruthardt による編集と記載されているペータース社とは共通点が多かったが、Richard Birnbach Musikverlag 版は独自の解釈を記載していた」と指摘している。3氏とも原典版を踏まえた研究ではあるが、『フランス版』『ドイツ版』について具体的な言及はない。その他、實野は『ルートハルト版』を使用していることを明記しているが、分析に使用している楽譜を見る限り『ヒンリッヒゼン版』(24を参照)を使用している。また、ペータース社には2種類の『練習曲』の楽譜があることについては言及されていない。さらに、『フランス版』と『ドイツ版』、ペータース社の2種類の楽譜表記の比較についての先行研究が見当たらないため、本研究に独自性があると考えられる。

研究の目的は、『フランス版』と『ドイツ版』、ペータース社の2つの楽譜表記の比較を行い、ピアノ指導者として国内版『練習曲』をどのように活用することが望まれるのかを考察する。なお、本稿は紙面の関係上、国内版の『練習曲』の比較は示していない。

## 二

### 2 国内版の『25の練習曲』の楽譜

#### 2-1 国内版の出版史

飯田らによると「輸入版ではなく日本で独自に版型が組まれ、日本語のタイトルと解説が付されたブルクミュラーの楽譜が出版されるようになったのは、昭和10年代頃と考えられる。現存最古の日本版ブルクミュラー譜(ぶるぐ協会蔵)は、今から70年ほど前の昭和15(1940)年9月に、今はなき好楽社から出版された」(2014: 128)と調査結果を示している。そこで筆者は、1940年以降の国内版『練

習曲』の楽譜（演奏法等を示した楽譜・書籍も含む）がどの程度出版されてきたのかを国立国会図書館とCiNii Books、音楽系・芸術系大学附属図書館の蔵書検索（OPAC）を利用し、「ブルクミュラー」「ブルクミュラー」「Burgmuller」の3つのワードで調査した。出版年については、閲覧した楽譜の奥付などの情報を参照にした。資料1は、初版の出版年（初版の記録がわからない楽譜は古い年を記載）を古い順から並べたものである。同じ曲集名のもと改版（改訂）を行なっていることがわかった楽譜は同じ枠に併記しているが、出版社を変更した楽譜は別枠に記載している。曲集名の前の◇、◆の記号が付してあるものは筆者が所持しているか閲覧した楽譜を示しており、◇は『フランス版』『ドイツ版』系統と考えられる楽譜である。

このように日本版『練習曲』は、現在までに多くの楽譜が出版されてきたことがわかった。好楽社は1940年に出版したその2年後に改版を行っている。そのことについて飯田らは（2014：131-132）は、1940年版は『フランス版』『ドイツ版』に近い系統、1942年版以降はペータース社の『ルートハルト版』によく似ていると指摘している。2つの楽譜の顕著な違いは、アーティキュレーション記号の1つであるスラーに表れている。好楽社の1940年版は『フランス版』『ドイツ版』と同じ短いスラー（アーティキュレーションスラー）、1942年版は長いスラー（フレージングスラー）を主としたものとなっている。改版が行われたことにより、他社の楽譜もそちらを下敷きにして楽譜を編纂していくこととなり、1942年から1990年の『種田版』が出版されるまで多くの人が『ルートハルト版』に近い楽譜を用いて練習・演奏をしてきたといえる。好楽社がなぜ改版をしたのかについては、わかっていない。筆者は音楽之友社（1957年版の重版と思われる）の楽譜を使用して、1980年代後半に『練習曲』を学んだ。現在もその楽譜を所持しており、『フランス版』と『ドイツ版』と比較しながら演奏した際には、記憶していたものとの演奏表現の違いが多くあり大変驚いた。

1950年代に入ると全音楽譜出版社、音楽之友社、カワイ楽譜と現在も『練習曲』の楽譜を出版している会社が登場する。1997年に全音楽譜出版社が、2006年に音楽之友社が改訂を行い出版している。しかし、全音楽譜出版社は『ルートハルト版』系統の楽譜を引き続き採用している<sup>12</sup>。

1960年代以降は、複数の出版社からさまざまな種類の楽譜が出版されている。2台ピアノのため、障がい者<sup>13</sup>向けの点字楽譜、演奏の解説や指導のポイントなどが書き込まれた楽譜などバリエーションも豊かになっている。2003年以降は、アレンジ楽譜まで登場する。

## 2-2 『フランス版』・『ドイツ版』系統の国内版『練習曲』

資料1の◇で示した9冊が『フランス版』『ドイツ版』系統の楽譜ということがわかった。表1は、その系統に属する根拠と校訂者（著者）名を示したものである。

表1 『フランス版』『ドイツ版』系統の楽譜(著書)と校訂者

校訂者(著者)	『フランス版』・『ドイツ版』系統とした根拠
種田直之校訂	ウィーン原典版。はじめにの文章に、「この版は初版をもとにして編集した」と記述あり。
手塚真人校訂	ヤマハミュージックメディア編集部によって、「原典を底本とした音楽解釈」「原典を底本とした楽譜校訂を行なっております」と記述あり。
春畑セロリ校訂	校訂について、「この本では、必要以上の解釈を加えず、すべて初版を下敷きにしました」と記述あり。
東音企画5冊 (今井顕校訂)	今井顕校訂の(原典スラー付き)の楽譜では、原典スラーとルートハルト校訂系統の長いスラー2つを色分けして表記している。 『徹底活用ガイド』『100のレッスン・レシピ』の演奏法解説も、同じ楽譜を使用している。
山本訓久著	著書の参考文献表(楽譜)に、初版(パリ、ドイツ)、ルートハルト校訂版、ウィーン原典版、全音楽譜出版社の5冊が挙げられている。 著書の中では、初版譜やルートハルト校訂の楽譜を区別して載せている。

### 2-3 『ルートハルト版』系統の国内版『練習曲』

1990年の『種田版』出版後に、各出版社において見直し傾向が強まったと先述したが、各曲の邦題や強弱記号の部分的な変更、ペダル記号を新たに記載した等、校訂者の解釈が新たに加わったかたちで再編集されている楽譜がある。その代表的な楽譜として、1997年に改訂出版した全音楽譜出版社が挙げられる。その他、底本とする楽譜を明記していないものの『ルートハルト版』系統に含まれる楽譜が多数あった。

### 2-4 ペータース社の2種類の『練習曲』

これまでペータース社の『ルートハルト版』についてふれることがあったが、ペータース社からは『ルートハルト版』の他に、もう1つの校訂版(解釈版)が出版されている。それは1974年に出版されたヒンリッヒゼン校訂による楽譜(以下、『ヒンリッヒゼン版』とする)である。

『ルートハルト版』は、ルートハルト校訂、ペータース社のライプツィヒ事務所、各ページ下中央にプレート番号8906、ペータース社のカタログ番号3101の記載がある。これらの情報はペトルッチ楽譜ライブラリーの情報<sup>14</sup>とも一致し、1903年に出版された版であることがわかる。

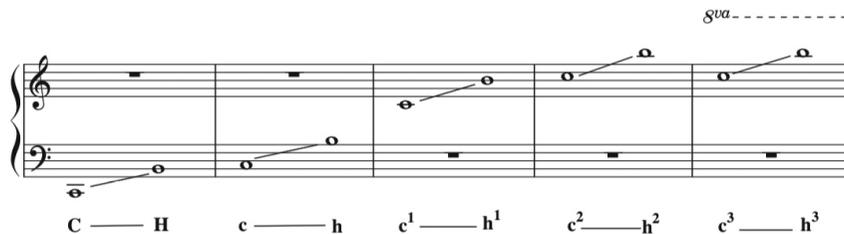
『ヒンリッヒゼン版』は、ルートハルト校訂、ペータース社のロンドン・フランクフルト・ライプツィヒ・ニューヨークの記載があるが、1曲目の左下に「Hinrichsen Edition, Peters Edition Ltd., London」の記載があり、イギリスのロンドン事務所からの出版ということがわかる。プレート番号8906の記載が無いので版が違うのは明確なのだが、カタログ番号が3101と同じなのだ。要するにペータース社のカタログ番号3101には、『ルートハルト版』と『ヒンリッヒゼン版』を底本として編纂された『ヒンリッヒゼン版』の2種類が存在するということだ。

ここで国内版の楽譜に関連させると、2000年にヤマハミュージックメディアから出版された『ペータース社ライセンス版25の練習曲』は、『ヒンリッヒゼン版』を使用しているため、純粋な『ルートハルト版』ではない。表1で示した山本の著書では、「1903年」「ライプツィヒ」と明記しており『ルートハルト版』を参考にしたことがわかる。

## 2-5 『ルートハルト版』と『ヒンリッヒゼン版』の楽譜の表記

2-4で示した『ルートハルト版』と『ヒンリッヒゼン版』の楽譜には、どのような表記の違いがあるのか、主なものを下記に示す。なお、音名と音の高さを示す場合は、図1の表記を用いる。

図1 ドイツ音名における音高表記



### 2-5-1 速さの変化等を示す用語

『ルートハルト版』では「in tempo」の表記だが、『ヒンリッヒゼン版』ではその指示が「a tempo」に変更されている箇所が多数ある。ヒンリッヒゼンが今日の習慣に倣って、速度が一時的に変化し、曲本来の速さに戻す時に使用される「a tempo」に変更したと考えられる。

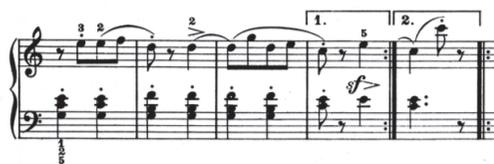
### 2-5-2 スラーとアクセントの表記

譜例1のように、第8小節から第10小節にかけてのスラーに表記の違いがある。『ルートハルト版』ではタイの終わりからスラーの指示があることで、第8小節2拍目の $d^2$ 音の減衰した音を聴いてから第9小節1拍裏の $g^2$ 音を弾くようになるだろう。『ヒンリッヒゼン版』では、タイとスラーの開始音が同じで、タイの記号上部に長いスラーが表記されている。『ルートハルト版』と同じく $d^2$ 音の減衰した音を聴いてから次の音を弾くが、 $d^2$ 音のアクセントで奏されたエネルギーを持続させた気持ちで次の $g^2$ 音へつなげて弾くような解釈ができる。

また、譜例1の第10小節ではアクセント記号の長さに違いがある。『ルートハルト版』では今日一般的に使われているアクセント記号が用いられ、『ヒンリッヒゼン版』では少し長めの記号となっている。このような違いは、他の曲でも散見される。

譜例1 第2曲「アラベスク」第7小節からの楽譜

a) 『ルートハルト版』



b) 『ヒンリッヒゼン版』



五

### 2-5-3 記号の有無

譜例2のように『ルートハルト版』には最終小節にアクセント記号があるが、『ヒンリッヒゼン版』には無い。また、『ルートハルト版』にあった表記が『ヒンリッヒゼン版』で削除されている主なものとして、第22曲「舟歌」、第23曲「つばめ」のクレシェンド記号の削除が挙げられる。その他『練習曲』全体的にスラーやスタッカート（丸点）等の削除も散見される。第25曲「乗馬」では逆に、『ルートハルト版』には無い *p* の記号が、『ヒンリッヒゼン版』に表記されている。

譜例2 第2曲「アラベスク」終始部分の楽譜

a) 『ルートハルト版』



b) 『ヒンリッヒゼン版』



### 2-5-4 記号の位置

譜例3のように、第14、15小節に *sf* とアクセント記号があるが、『ヒンリッヒゼン版』ではアクセント記号の位置が3連符の3つ目の音に移動している。また、曲の後半では譜例4に示したように音楽が再現されるのだが、『ヒンリッヒゼン版』では長いアクセント記号となり、指示される位置も変わっている。印刷ミスとも考えられるが、譜例4bの表記は『フランス版』『ドイツ版』と同じである。要するに、『フランス版』『ドイツ版』では譜例4bのように前後半とも表記されていたものが、『ルートハルト版』『ヒンリッヒゼン版』ともに独自の表記をとったということが言える。

譜例3 第12曲「別れ」第13小節からの楽譜

a) 『ルートハルト版』



b) 『ヒンリッヒゼン版』



譜例4 第12曲「別れ」第33小節からの楽譜

a) 『ルートハルト版』

b) 『ヒンリッヒゼン版』

### 3 『フランス版』と『ドイツ版』

#### 3-1 2つの初版の表記の違い

ブルクミュラーは、1851年にフランス、1852年にドイツからそれぞれ違う出版社から初版となる楽譜を世に送り出している。この2つの楽譜を比較すると、違いがあることに気づく。当時の印刷技術の問題が含まれることを前提としつつも、ブルクミュラーが意図的に音楽表現を変更したことなど様々な事が考えられるが、ここではどのような表記の違いがあるのか、主なものを下記に示す。音名と音の高さを示す場合は、図1の表記を用いる。なお、インターネット上で閲覧できる楽譜をそのまま使用しているため、『ドイツ版』の譜例には書き込みが残っている。

##### 3-1-1 アクセント記号

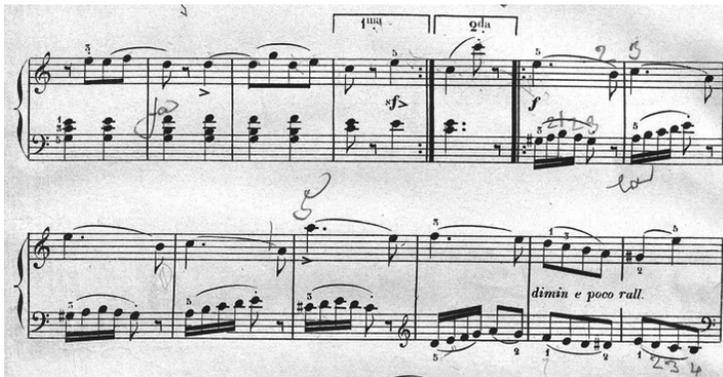
譜例5の第8、10小節には、アクセントが指示されている。『フランス版』は少し長めのアクセント記号になっている。『ドイツ版』は、今日使用されている一般的なアクセント記号となっている。2つの楽譜ともに、他の曲でもそのような記号が散見される。

譜例5 第2曲「アラベスク」第7小節からの楽譜

a-1) 『フランス版』



b-1) 『ドイツ版』

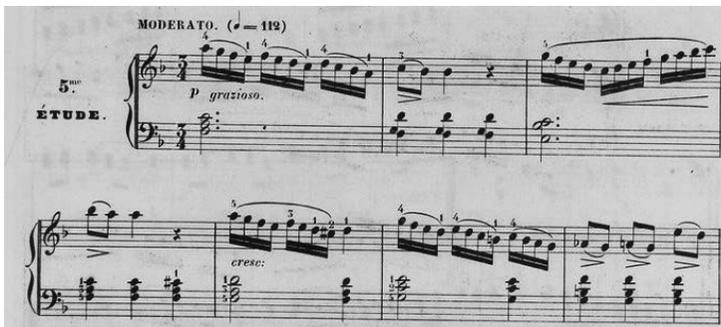


3-1-2 アクセント記号②

譜例6もアクセントについての指摘になるが、『フランス版』では譜例5で示したサイズのアクセント記号が「無邪気」にも使用されている。しかし8分音符2つ分に対して表記されていることから、アクセントではなくデクレシェンドと解釈できる。一方『ドイツ版』では第2、4小節には『フランス版』と同じサイズの記号があり、第7小節では今日使用されている一般的なアクセント記号が表記されているため、2つの表現の違いが求められていることになるだろう。

譜例6 第5曲「無邪気」冒頭の楽譜

a-1) 『フランス版』



## b-1) 『ドイツ版』

## 3-1-3 その他の違い

譜例5、6に示したものの以外に、『練習曲』全体を通して演奏表現に関わる違いがある。例えば、強弱記号の書き始める場所の違い、記号の有無である。『フランス版』にあった記号の表記が、『ドイツ版』で表記されないことがある。ミスによるものか、ブルクミュラーの意図するものなのかはわからない。このように、ブルクミュラーが生きていた時代出版した2つの初版となる楽譜に多数の違いがあることがわかった。

## 4 まとめと今後の課題

本研究では、国内版『練習曲』が何種類も出版されていることがわかった。国内において需要が高かったことが窺え、多くの人がこの『練習曲』を取り組んできたといえる。自筆譜の存在が確認できていないため『フランス版』『ドイツ版』と国内版を比較すると、そのほとんどがブルクミュラーの意図を的確に反映していない楽譜である。そのため、初めに『フランス版』『ドイツ版』を用いて解釈を行い、その後に『ルートハルト版』『ヒンリッヒゼン版』や国内版『練習曲』の楽譜を用いて多様な解釈、音楽表現を学んでいく(学び直しをする)ことがピアノ指導者に求められるのではないかと筆者は考える。

また、ブルクミュラーが生存中に出版した『フランス版』『ドイツ版』の楽譜には多くの違いがあることがわかった。さらに、ベータース社から出版されている『ルートハルト版』『ヒンリッヒゼン版』は、出版当時の習慣に倣って表記を変更したことがわかっていて、このような楽譜の表記に違いがあることを否定的に捉えるのではなく、そのような解釈ができることを受け止める態度も指導者に求められるのではないかと筆者は考える。なぜなら、楽譜の表記に関してブルクミュラーが意図的に変更したのか、楽譜製作の技術が影響したのかなど様々なことが推測できるが、世の中に送り出した楽譜がルートハルトによって解釈され、それが今日の日本に届き、未だに多くの人に愛好されているということが国内版『練習曲』の豊富さからわかるからだ。

本研究では、今般のコロナ禍により全ての楽譜を見ることができなかった。また、国内版『練習曲』の表記の比較や曲ごとの考察ができていないため、今後の課題とする。

注

- 1 日本国内では、「ク」もしくは濁点を付した「グ」のどちらかの表記で示される。本稿では、ドイツ語の発音に近い「ク」を採用する。
- 2 フランス初版の表紙には、*25 Etudes faciles et progressives pour le Piano composées et doigtées expressémento pour l'étendue des petites mains par Fred.<sup>ic</sup> Burgmüller op.100* の記載がある。  
『ピアノのためのやさしく段階的な 25 の練習曲 小さな手を広げるための明快な構成と運指 作品 100』(飯田ら 2014 : 22) と訳されている。
- 3 「ブルグミュラーコンクール 2021 参加要項」インターネット ,  
[https://cdn.to-on.com/static/entry\\_final/burgmuller/files/burgguide2021\\_20210806.pdf](https://cdn.to-on.com/static/entry_final/burgmuller/files/burgguide2021_20210806.pdf)  
(2021/4/18 にアクセス)
- 4 作曲者が残した形を、第三者の手を加えずなるべく忠実に再現しようとした版 (吉成 2012 : 4)
- 5 主に演奏家が、自分の解釈を伝えるために様々な指示や解説を施した版 (吉成 2012 : 5)
- 6 「ドイツのピアノ奏者、ピアノ教師、作曲家」「楽譜校訂の分野でも高名」(堀内 2008 : 2133)。日本国内の主要な教則本・曲集である『バイエル』『ソナチネアルバム』の校訂も行なっており、国内版はその楽譜を底本として編纂している。
- 7 「『25 の練習曲』の自筆譜は発見されておらず、何年に作曲されたという確固たる証拠も残されていない」(飯田ら 2014 : 58)
- 8 「この本では、必要以上の解釈を加えず、すべて初版を下敷きにしました」と記載がある。
- 9 今井顕校訂版(原典スラー付き)と明記され、フレージングの表示については「従来の楽譜では一般的だったフレージングとは異なる、ブルクミュラー自身の意思を最大限尊重した奏法を提案しました」と述べている。
- 10 新版とはフランス初版とドイツ初版を踏まえた楽譜、旧版とはルートハルト校訂やそれに近い系統の楽譜を指す。
- 11 實野が使用した「|」この記号は、「水滴のような形をしたスタッカートの記号」とウィーン原典版(種田 1990 : 7) では表現されている。
- 12 伊藤充子 (1996 : 158) は、「スラーの付け方、指使いの違いが、ウィーン原典版と全音版にみられた」と指摘している。
- 13 表 1 では、検索した際に記載された漢字をそのまま使用した。ここでは平仮名表記にしている。
- 14 ベトルッチ楽譜ライブラリー出版情報 インターネット ,  
[https://imslp.org/wiki/25\\_Études\\_faciles\\_et\\_progressives%2C\\_Op.100\\_\(Burgmüller%2C\\_Friedrich\)](https://imslp.org/wiki/25_Études_faciles_et_progressives%2C_Op.100_(Burgmüller%2C_Friedrich))  
(2021/4/18 にアクセス)

引用・参考文献

飯田有抄; 前島美保 2014『ブルクミュラー25の不思議 なぜこんなにも愛されるのか』東京: 音楽之友社

飯田有抄他共著 2015『ブルグミュラー25の練習曲 徹底活用ガイド』東京: 東音企画

伊藤充子 2017「教員養成におけるピアノ副教材の一つとして－ブルクミュラー 25 の練習曲 (第5報)－」『名古屋女子大学紀要』63 227-237

伊藤充子 2001「ブルクミュラー25の練習曲について (第4報)」『名古屋女子大学紀要 人文・社会編』(47) 173-182

伊藤充子 1999「ブルクミュラー25の練習曲について (第3報)」『名古屋女子大学紀要 人文・社会編』(45) 135-144

伊藤充子 1996「ブルクミュラー25の練習曲について (第2報)」『名古屋女子大学紀要 人文・社会編』(42) 153-158

- 伊藤充子 1994 「ブルグミュラー25の練習曲について (第一報)」『名古屋女子大学紀要 人文・社会編』(40) 107-112
- 今井顕 2003 「ソナチネアルバムの問題点 アーティキュレーションの濫用がもたらす弊害」『国立音楽大学大学院 研究年報音楽研究』(15) 1-29
- 實野みどり 2014 「エディションの考え方の違いによる演奏法についての考察～『ブルグミュラー25の練習曲 Op.100』を用いて～」『大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部紀要』27 (2) 53-70
- 堀内久美雄編 2008 『新訂 標準音楽辞典 第二版』東京：音楽之友社
- 多喜靖美；松本裕子；菅谷詩織協力 2016 『ブルグミュラー25の練習曲 100のレッスン・レシピ』東京：東音企画
- 平澤節子 2011 「ブルグミュラー再考～25の練習曲作品100を中心に～」『上田女子短期大学紀要』(34) 163-178
- 安田寛監修 小野亮祐；多田純一；長尾智絵共著 2016 『「バイエル」原典探訪 知られざる自筆譜・初版譜の諸相』東京：音楽之友社
- 山本訓久 2018 『ブルグミュラーで指揮法入門』東京：アルテスパブリッシング
- 吉成順 2012 『知って得するエディション講座』東京：音楽之友社
- ブルグミュラー 1957? 『ブルグミュラー25のやさしい練習曲』浅香淳（発行者）東京：音楽之友社
- ブルグミュラー 1990 『ブルグミュラー25の練習曲』ウィーン原典版 種田直之 初版にもとづく校訂 東京：音楽之友社
- ブルグミュラー 1997 『ブルグミュラー25 番練習曲 Op.100』北村智恵校訂・解説 東京：全音楽譜出版社
- ブルグミュラー 2000 『ペーターズ社ライセンス版 ブルグミュラー25の練習曲』東京：ヤマハミュージックメディア
- ブルグミュラー 2006 『ブルグミュラー25の練習曲 New Edition』春畑セロリ解説 東京：音楽之友社
- ブルグミュラー 2015 『ブルグミュラー25の練習曲 (和音記号・コードネーム付き)』渡部由記子；石黒加須美他協力 東京：東音企画
- ブルグミュラー 2019 『ブルグミュラー25の練習曲 指導マニュアル ～素敵に演奏するために～』今井顕校訂・解説 東京：東音企画
- ブルグミュラー 2019 『ブルグミュラー25の練習曲 (原典版スラー付き)』今井顕校訂 佐藤卓史解説 東京：東音企画
- ブルグミュラー 2020 『ブルグミュラー25の練習曲』楽譜校訂・「演奏のために」手塚真人 東京：ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス
- Burugmüller. 1903 *25 ÉTUDES FACILES ET PROGRESSIVE Opus 100*. Herausgegeben Adolf Ruthardt. C.F.Peters. Leipzig.
- Burugmüller. 1974 *25 ÉTUDES FACILES ET PROGRESSIVE Opus 100*. Herausgegeben von Adolf Ruthardt. Hinrichsen Edition, C.F.Peters. Ltd.London.
- 『フランス初版』(フランス国立図書館ウェブサイト: Gallica) インターネット,  
<https://gallica.bnf.fr/ark:/12148/btv1b52502531m.r=Burgmuller%20100?rk=21459;2> (2021/4/18 にアクセス)
- 『ドイツ初版』(スペイン電子図書館: BIBLIOTECA DIGITAL HISPÁNICA), インターネット  
<http://bdh-rd.bne.es/viewer.vm?id=0000093916&page=1> (2021/4/18 にアクセス)

参照楽譜

表 1 の◇で示した楽譜は、表に記載した出版情報に準ずる。

## 資料1 1940年以降の国内版『練習曲』(演奏法等を示した楽譜・書籍も含む)

曲集名	初版出版年	校訂者等と出版社
ブルグミュラー：25のやさしい練習曲集 (作品百番) [MOHAN PIANO No.1]	1940 初版 1942 改版	好樂社
ブルグミュラー25の練習曲集	1951	新興楽譜編集部編 新興楽譜出版社
Etüden Etudes-Studies Opus 100	1951	全音楽譜編集部編著 全音楽譜出版社
ブルグミュラー 25 番練習曲 Op.100	1955	全音楽譜出版社 北村智恵校訂・解説
◆25 easy studies op.100 Burgmüller 25のやさしい練習曲/ブルグミュラー	1957	音楽之友社
◆25 easy studies op.100 Burgmüller 25のやさしい練習曲/ブルグミュラー	1957 年版?	浅香淳 (発行者) 音楽之友社 ※筆者が1980年代後半に使用
Burgmüller	1959	東京音楽書院編 東京音楽書院
ブルグミュラー 〈25のやさしい練習曲〉	1959	高折宮次編著 カワイ楽譜
こどものブルグミュラー (解説つき)	初版 1961 20版 1987	酒田富治編著 共同音楽出版社
◆こどものブルグミュラー	1961	酒田富治編著 共同音楽出版社
25のやさしい練習曲: Opus100/ブルグミュラー	1962	カワイ楽譜
◆こどものブルグミュラー	1962 (1967?)	平尾妙子編 全音楽譜出版社
上手になれるブルグミュラー (1巻、2巻)	1962?	豊増昇; たなかすみこ共編 新興楽譜出版社
Etüden Burgmüller 二十五練習曲/ブルグミュラー [作曲] (全音ピアノライブラリー)	1963	全音出版部編 全音楽譜出版社
ブルグミュラー・25の練習曲: 解説付	1963	カワイ楽譜編集部編 カワイ楽譜
ブルグミュラー25の練習曲 Op.100 (解説付)	1966	伊藤義雄; 高田三郎; 田村宏; 千蔵八郎校訂 日本音楽出版株式会社
◆Etudes faciles op.100 ブルグミュラー25練習曲 解説付 Burgmüller	1966 年以前	日本音楽出版
ブルグミュラー25・18・12練習曲 (ピアノ指導講座2)	1967	田村宏; 千蔵八郎編 日音
ブルグミュラー作品 100 改定版 (Braille music) 障害者向け資料 [点字資料]	1972	平井点字社
◆ブルグミュラー 練習曲集 演奏法講義	1973	水野精一-1.7『あしかび』5号 あしかび同人編
◆2台のピアノのためのブルグミュラー (1) (2)	◇初版 (1) 1973 初版 (2) 1976	たなかすみこ編著 アルフレッド・バトラー伴奏 新興楽譜出版社 略称シンコー・ミュージック
◆2台ピアノのためのブルグミュラー25の練習曲	第1版 1976	全音楽譜出版社 第2ピアノ作曲ハンス・フランク
◆こどものブルグミュラー (解説つき)	初版 1977	酒田富治編著 豊田治男発行者 共同音楽出版社
◆ブルグミュラー・25の練習曲	◇第1刷 1980 ◇新版1刷 2002	井内澄子校訂 門馬直美解説, 河合楽器製作所・ 出版事業部 (1980~), カワイ出版 (新2002~)
やさしいブルグミュラー: 音楽会用	1981	橋内良枝編著 東京音楽書院
ブルグミュラー作品 100 (Braille music) 障害者向け資料 [点字資料]	1982	平井点字社
◆ムジカノヴァピアノレッスンシリーズ ブルグミュラー/ 25のやさしい練習曲	第1刷 1982	永富和子編著 音楽之友社
ほこあほこのブルグミュラー: 解説・ペダル付	1985	長谷川美世子編著 共同音楽出版社
ブルグミュラー25・18・12練習曲 (ピアノ指導講座2)	1985	田村宏; 千蔵八郎編 エー・ティー・エヌ
◆こどものためのブルグミュラー 〈25の練習曲〉	初版 1988	森本琢郎; 池田恭子共編 ドレミ楽譜出版社
◆新版 こどものブルグミュラー	初版 1989 改訂版 1995	田丸信明編 学研プラス
◇25の練習曲 作品 100	1990	種田直之校訂 ウィーン原版; 音楽之友社
ブルグミュラーはおともだち: ブルグミュラー 25の練習曲	1992	ばるん舎
ブルグミュラー25の練習曲 (ドレミ・クラヴィア・アルバム)	1992	ドレミ楽譜出版社
25 leichte Etüden Op.100 Burgmüller	1992	東京音楽社 herausgegeben von Naoshi Akisue
◆ブルグミュラー 再発見 心を育てるピアノ指導のヒント レスナーシリーズ5	初版 1992	秋末直志 株式会社ショパン
◆演奏会用新曲付 ブルグミュラー 和音記号付	第1刷 1993	小野寺昭子編著 音楽之友社
◆レスナーのための指導のポイント ブルグミュラー25・18・12練習曲	初版 1994 第2版 2011	田村宏著 エー・ティー・エヌ
◆CD + 楽譜集 ブルグミュラー25の練習曲 ピアノ演奏: ハンス・カン	1995	ドレミ楽譜出版社編集部 ドレミ楽譜出版社
◆ソナチネとブルグミュラー: こどものためのベストセレクション (独奏/連弾)	初版 1996	市川都志春編著 教育芸術社
◆こどものブルグミュラー ミッキーといっしょ	初版 1996 改訂 2019	ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス
◆ブルグミュラー 25の練習曲 Op.100 (全音ピアノライブラリー)	1997	北村智恵校訂・解説 全音楽譜出版社

ブルクミュラー『25の練習曲 作品100』の楽譜表記の研究(1)

ハローキティとたのしいブルクミュラー：「25の練習曲」Op.100 (ファンタジー・ワールド)	1998	東京音楽書院
◆ベータース社ライセンス版 ブルクミュラー25の練習曲 アドルフ・ルートハルト校訂 (ヒンリッヒゼン Edition)	初版 2000	ヤマハミュージックメディア
◆トレーニング・オブ・アナリーゼ ブルクミュラー編	第1刷 2000 新第1刷 2012	鶴崎庚一著 カワイ出版 (全音楽譜出版社カワイ出版部)
◆標準新版 ブルクミュラー25の練習曲	初版 2002	田丸信明監修 学研プラス
ブルクミュラー25の練習曲 (新版)	新第1刷 2002	井内澄子校訂・解説, 門馬直美解説 カワイ出版
◆ブルクミュラー・ファンタジー：連弾とソロ	第1版 2003 第2版 2006	宮本満栄編曲・解説 全音楽譜出版社
◇ブルクミュラー25の練習曲』いわさきちひろカラー絵画付 (ちいさな手のピアニスト, 新標準版)	初版 2004 ◇第24版 2020	手塚真人校訂 ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス
◇ブルクミュラー25の練習曲 解説付 New Edition	第1刷 2006	春畑セロリ解説 音楽之友社
◆新ピアノ・ライブラリー ブルクミュラー 25の練習曲/18の練習曲	2006	佐野真澄校訂 ケイ・エム・ビー
CD + 楽譜集 ブルクミュラー 25の練習曲 (CD版) ピアノ演奏：ハンス・カン	初版 2007	ドレミ楽譜出版社編集部 ドレミ楽譜出版社
ブルクミュラー25の練習曲	2008	デプロ編著
◆ブルクミュラー25の練習曲 和声分析と奏法のアドバイス	初版 2009	六島礼子解説 株式会社ハンナ
25の練習曲/ブルクミュラー	2009	六島礼子解説 株式会社ショパン
Burgmüller concerto=ブルクミュラー・コンチェルト	2009	学研
◆CD + 楽譜集 ブルクミュラー 25の練習曲 (CD版)	初版 2011	関口博子解説 ドレミ楽譜出版社
ブルクミュラーでお国めぐりお話しピアノ連弾曲集 大人から子供まで楽しめる!	2012	後藤ミカ編 ドレミ楽譜出版社
◆どんな表現もOK なるほど! 大人のブルクミュラー25 (初めての人も再チャレンジの人も) CD付	2012	衣川久美子; 古庵晶子; 山崎和子編著 サーバル社
◆ドレミ・クラヴィア・アルバム ブルクミュラー25の練習曲	初版 2013	平尾妙子編 ドレミ楽譜出版社
こどものブルクミュラー 標準版	2013	ドレミ楽譜出版社編集部 ドレミ楽譜出版社
◆ほこあほこのブルクミュラー：解説・ペダル付	2013	長谷川美世子; 岡田みな子共著 共同音楽出版社
◆中級導入ピアノテキスト ぴあの どりーむ ブルクミュラー 25の練習曲	初版 2013	田丸信明編 学研プラス
◆ピアノを学ぶ人へ贈る 武本京子の「イメージ奏法」によるワークブック 「ブルクミュラー25の練習曲」	第1刷 2013	武本京子 音楽之友社
◆表現力がぐんぐん育つ! はじめてのイメージトレーニング 新こどものブルクミュラー 25の練習曲	第1版 2013	松本倫子編 音楽みみこ解説 全音楽譜出版社
◆ブルクミュラー 25の練習曲	初版 2014 2版 2016	内藤雅子監修 デプロ MP
ふたりのブルクミュラー25の練習曲連弾伴奏集：原曲がそのままひける 新版	2014 旧版 2020 新版	佐々木邦夫 伴奏作曲 音楽之友社
◆標準版こどものブルクミュラー (ブルクミュラー25の練習曲)	初版 2015	ドレミ楽譜出版社
◆ブルクミュラー25の練習曲 (新標準版)	初版 2015 第4版 2019	松本清校訂・解説 ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス
◇ブルクミュラー25の練習曲 (和音記号・コードネーム付き)	初版 2015 第5版 2019	渡部由記子; 石黒加須美他協力 東音企画
◇ブルクミュラー25の練習曲 徹底活用ガイド	2015 初版	東音企画
ブルクミュラー・アンサンブル [2]	2016	有泉久美子編著 ヤマハミュージックメディア
ブルクミュラー はじめてのピアノ教本 練習曲：導入1 New Edition	2016	音楽之友社
ブルクミュラー ピアノ曲集：導入2・上級1 New Edition	2016	飯田有抄; 前嶋美保; 春畑セロリ解説 音楽之友社
プレミアム・アレンジでブルクミュラー：レッスンや発表会が楽しめる パリエーション集	2016	佐土原知子; 丹内真弓 共著, 奥田知世編 ドレミ楽譜出版社
◇ブルクミュラー25の練習曲 100のレッスン・レシピ・アンサンブル譜付	初版 2016 第4版 2018	多喜靖美; 松本裕子; 菅谷詩織協力 東音企画
◆これならひとりでマスターできる! 大人のための独習ブルクミュラー25の 練習曲	初版 2016 第6版 2021	大橋由香里編著 ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス
◆ブルクミュラー 25の練習曲 ロマン派の作品の指導法 (別冊解説書付き)	初版 2016 第3版 2017	石黒加須美; 石黒美有 ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス

ブルグミュラーデスマッチ!ブルグミュラー「25の練習曲 op.100」による5つの演奏会用小品	2017	西澤健一編 芸術現代社
◆ピアノソロ ブルクミュラーアレンジで弾くクリスマス	初版 2017	秋敦子：秋透他編曲 ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス
◆ブルグミュラー・25の練習曲をきれいな音で弾くためにブルク25のポイント集中練習	第1刷 2017	松田紗依著 カワイ出版
◇ブルグミュラーで指揮法入門	初版 2018	山本訓久 アルテスパブリッシング
◇ブルグミュラー25の練習曲 (原典スラー付き)	初版 2019	今井顕校訂 佐藤卓史解説 東音企画
◇ブルグミュラー25の練習曲 指導マニュアル～素敵に演奏するために～	初版 2019	今井顕著 東音企画
◆ LESSON PIANO CONCERTO ブルクミュラー 25の練習曲 Burgmüller Concerto	2019 初版	江崎光世推薦 飯沼信義：小野崎孝輔編曲,ピアノ：藤村京子；クラウス・ヘルヴィッヒ他 学研プラス
ブルグミュラー ミーツポップス!ブルク25 弾きたい!ポピュラー・ピアノ・初・中級	2020	中谷幹人編曲 カワイ出版
絶対弾きたい!さわやかクラシック:やさしいピアノ曲集:ブルグミュラー25番で弾ける	2020	安倍美穂:加藤由美子:鈴木豊乃:鷹羽弘晃:望月たけ美編曲 カワイ出版